

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

(実施期間：平成 27～32 年度)

実施機関：国立高等専門学校機構（総括責任者：谷口 功）

取組の概要

「女性研究者が生き生きと研究教育活動に取り組むことが出来る高専を作り上げる」決意の下、機関のスケールメリットを活用し、国立高専の女性研究者特有のニーズに応える次の取組を実施する。

1. 修士の女性を雇用し、博士号取得支援により研究者として育成する「めざせ高専研究者の道」プログラムで女性研究者比率向上を図る。
2. 55キャンパス活用同居支援プログラム等で研究環境の向上を目指す。
3. ライフイベントで研究を中断した研究者へ研究アドバイザーによるRe-Start研究支援プログラムを実施する。
4. 計画的な上位職登用を促す女性登用促進プログラムを実施する。

これらは、全国55キャンパスのスケールメリットを活用した高専ならではのユニークな取組である。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
S	s	s	s	a	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

理事長のリーダーシップの下、全国に分散する 55 キャンパスを有する機関ならではのスケールメリットを活かし、女性研究者のニーズを踏まえた同居支援システムを構築するとともに、博士号取得支援や研究とライフイベントとの両立支援を通じて女性研究者の研究力強化を進め、さらに、抜本的な人事制度改革により初の女性校長の誕生を可能にしたことは高く評価できる。女性教員の採用比率及び在職比率、女性教授比率ともに、所期の目標を上回り達成しており、さらなる展開も期待できる。今後は、病児保育支援、学童保育支援等について検討することを期待する。

- **目標達成度**：女性研究者の採用比率及び在職比率、女性教授比率は、所期の目標を上回り上昇しており高く評価できる。取組は順調に進められており、実施期間終了時の最終目標についても達成の見通しが高く期待できる。
- **取組**：「55 キャンパス活用同居支援プログラム」、「めざせ高専研究者の道プログラム」、「Re-Start 研究支援プログラム」、「女性登用促進プログラム」は、機関ならではの優れた取組であり高く評価できる。また、女性教員を採用した高等専門学校に対する「特別経費の配分」、「教員人事枠運用の弾力化」、全教員公募における「女性優先公募」の実施といった実効性の高いポジティブ・アクションも高く評価できる。
- **取組の成果**：任期を付さない職に就く女性教員が 51 名と大幅に増加し、その内、29 名は自然科学系分野の女性教員であり、また、任期を付さない職に就く自然科学系分野の女性教授が

10名増加したことは高く評価できる。さらに、これまで全国どの高等専門学校にも在籍しなかった女性校長が2名誕生したことは機関のガバナンスの成果として高く評価できる。

- **実施体制**：理事長の強いリーダーシップの下、機関（機構事務局）内に「A11 KOSEN 女性研究者支援オフィス」を設置し、全国に所在する51高等専門学校を5ブロック体制とし、各ブロックに「男女共同参画推進室併任教員」を配置し、全国すべての高等専門学校において効率的に取組が展開できる実施体制を構築したことは評価できる。
- **今後の進め方**：今後の具体的な資金計画が立てられており取組の継続性は評価できる。さらに、保育支援に関する女性研究者のニーズを調査し、ニーズが認められる場合には積極的に取り組むことを期待する。